

古今一如

—糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》だより—

第1号

発行日 平成19年3月1日
編集・発行 糸魚川歴史民俗資料館
〒941-0056 糸魚川市一の宮1-2-2
TEL・FAX 025-552-7471
URL <http://www.city.itoi-gawa.niigata.jp/>
e-mail bunka@city.itoi-gawa.niigata.jp

開館三十周年にあたり

館長 山岸 欽也

糸魚川歴史民俗資料館が昭和52年に開館し、今年で三十周年を迎える。当館の建設計画が持ち上がり以来、今日に至るまで多くの方々からご指導やご援助をいただき、館を運営して参りました。これも、偏に皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当館では、市民一人ひとりが地域の歴史・文化の価値を自覚し、市民の郷土愛を喚起する機会を提供するため、相馬御風資料を中心に、収蔵展示しております。貴重な良寛資料や古美術品、また多数の文献資料——御風が生涯をかけて収集したこれらの資料は、もともと新潟県の史跡に指定されている相馬御風宅の上蔵で保管されておりました。糸魚川市では、これらの貴重な文化財を未来への財産として引き継ぐべく、当館が開館した次第です。

開館初日から十日間、無料公開された「開館一般公开展」では、四千一百人の見学者を集め、初年度の年間入館者数は約一万五百人弱でした。その後も企画展・特別展を年に一、二回開催し、平成19年3月現在、累計入館者数が16万人を突破いたしました。館を訪れてくださるお客様の中には、毎年、企画展を楽しみにおいてくださる方もいらっしゃいます。また、偶然訪れたら、母校の校歌の作詞者が御風であることを初めて知つて驚いたという方もいらっしゃいます。こ

うしてできたお客さまとの縁は、当館にとりまして、かけがえのない財産となっております。

また、木村秋雨翁収集資料や伴是福家文書など、毎年数多くの資料をご寄贈・

ご寄託賜り、資料の充実が図られております。しかしながら、年間入館者数は減少傾向にあります。当館の努力不足も否めませんが、これは当館ばかりか、全国どの博物館や美術館も入館者の減少に悩まされています。この原因としては、

価値観の多様化に伴う趣向の変化や、博物館や美術館の数が増加し、利用者が分散していること、開館から数年が経ち、日々新しさがなくなっていることなど、様々な理由が考えられます。

少子高齢化社会が進展し、地方自治体の財政が苦しい状況にある現在、当館の入館者数を劇的に増加させることは不可能です。しかし、資料館の目的は、入館者を増やすことだけではありません。最初に述べたように、当館を訪れていただけ、地域の歴史・文化の価値を再発見していただくことこそが、当館の使命だと考へているからです。これから資料館は、お客様を待つておらず、ダメだと言われています。積極的に地域へ出向き、その地域の歴史文化をより多くの市民の皆さんに知つていただく。そして、市民の皆さんと一緒に地域づくりに参加していくことが、今後の資料館や博物館美術館のあるべき姿だと考えられており

活動をより知つていただくため、情報発信をして参りたいと存じます。今後とも、皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

く資料館三十年のあゆみ

昭和51年8月

昭和52年6月

昭和57年5月

昭和58年11月

昭和59年6月

昭和60年3月

昭和61年3月

昭和62年3月

昭和63年3月

昭和64年3月

昭和65年3月

昭和66年3月

昭和67年3月

昭和68年3月

昭和69年3月

昭和70年3月

昭和71年3月

昭和72年3月

昭和73年3月

昭和74年3月

昭和75年3月

昭和76年3月

昭和77年3月

昭和78年3月

昭和79年3月

昭和80年3月

昭和81年3月

昭和82年3月

昭和83年3月

昭和84年3月

昭和85年3月

昭和86年3月

昭和87年3月

昭和88年3月

昭和89年3月

昭和90年3月

昭和91年3月

昭和92年3月

昭和93年3月

昭和94年3月

昭和95年3月

昭和96年3月

昭和97年3月

昭和98年3月

昭和99年3月

昭和100年3月

昭和101年3月

昭和102年3月

昭和103年3月

昭和104年3月

昭和105年3月

昭和106年3月

昭和107年3月

昭和108年3月

昭和109年3月

昭和110年3月

昭和111年3月

昭和112年3月

昭和113年3月

昭和114年3月

昭和115年3月

昭和116年3月

昭和117年3月

昭和118年3月

昭和119年3月

昭和120年3月

昭和121年3月

昭和122年3月

昭和123年3月

昭和124年3月

昭和125年3月

昭和126年3月

昭和127年3月

昭和128年3月

昭和129年3月

昭和130年3月

昭和131年3月

昭和132年3月

昭和133年3月

昭和134年3月

昭和135年3月

昭和136年3月

昭和137年3月

昭和138年3月

昭和139年3月

昭和140年3月

昭和141年3月

昭和142年3月

昭和143年3月

昭和144年3月

昭和145年3月

昭和146年3月

昭和147年3月

昭和148年3月

昭和149年3月

昭和150年3月

昭和151年3月

昭和152年3月

昭和153年3月

昭和154年3月

昭和155年3月

昭和156年3月

昭和157年3月

昭和158年3月

昭和159年3月

昭和160年3月

昭和161年3月

昭和162年3月

昭和163年3月

昭和164年3月

昭和165年3月

昭和166年3月

昭和167年3月

昭和168年3月

昭和169年3月

昭和170年3月

昭和171年3月

昭和172年3月

昭和173年3月

昭和174年3月

昭和175年3月

昭和176年3月

昭和177年3月

昭和178年3月

昭和179年3月

昭和180年3月

昭和181年3月

昭和182年3月

昭和183年3月

昭和184年3月

昭和185年3月

昭和186年3月

昭和187年3月

昭和188年3月

昭和189年3月

昭和190年3月

昭和191年3月

昭和192年3月

昭和193年3月

昭和194年3月

昭和195年3月

昭和196年3月

昭和197年3月

昭和198年3月

昭和199年3月

昭和200年3月

昭和201年3月

昭和202年3月

昭和203年3月

昭和204年3月

昭和205年3月

昭和206年3月

昭和207年3月

昭和208年3月

昭和209年3月

昭和210年3月

昭和211年3月

昭和212年3月

昭和213年3月

昭和214年3月

昭和215年3月

昭和216年3月

昭和217年3月

昭和218年3月

昭和219年3月

昭和220年3月

昭和221年3月

昭和222年3月

昭和223年3月

昭和224年3月

昭和225年3月

昭和226年3月

昭和227年3月

昭和228年3月

昭和229年3月

昭和230年3月

昭和231年3月

昭和232年3月

昭和233年3月

昭和234年3月

昭和235年3月

昭和236年3月

昭和237年3月

昭和238年3月

昭和239年3月

昭和240年3月

昭和241年3月

昭和242年3月

昭和243年3月

昭和244年3月

昭和245年3月

昭和246年3月

昭和247年3月

昭和248年3月

昭和249年3月

昭和250年3月

昭和251年3月

昭和252年3月

昭和253年3月

昭和254年3月

昭和255年3月

昭和256年3月

昭和257年3月

昭和258年3月

昭和259年3月

昭和260年3月

昭和261年3月

昭和262年3月

昭和263年3月

昭和264年3月

昭和265年3月

昭和266年3月

昭和267年3月

昭和268年3月

昭和269年3月

昭和270年3月

昭和271年3月

昭和272年3月

昭和273年3月

昭和274年3月

昭和275年3月

昭和276年3月

昭和277年3月

昭和278年3月

昭和279年3月

昭和280年3月

昭和281年3月

昭和282年3月

昭和283年3月

昭和284年3